

Ⅲ 小学部の教育課程

1 小学部の教育目標

- (1) 健康で丈夫な心と身体を育てる。(げんきな子)
- (2) 身の回りのことが自分でできる力を育てる。(じぶんでする子)
- (3) 豊かな感情と表現する力を育てる。(あかるい子)
- (4) 最後までやりぬく力を育てる。(がんばる子)
- (5) 約束やきまりを守り、集団に参加する態度を育てる。(なかよくする子)

2 教育課程の編成方針

- (1) 本校の教育目標及び学部目標の実現に必要な教育の内容等、特別活動を中心とした教科等横断的な視点で組み立てていくことに配慮した編成を行う。
- (2) 生活年齢を大切にした学校生活を通して、児童の「生きる力」を高め、自立し社会参加のできる児童の育成をめざす。
- (3) 児童の障害の状態や発達段階等を把握して、系統的な指導を行い、弾力性のある教育課程を編成する。
- (4) 「学びの連続性」「途切れのない一貫した指導・支援」に配慮した教育課程を編成する。
- (5) 「個別の教育支援計画」を踏まえた、「個別の指導計画」を効果的に活用し、合意形成に基づく合理的配慮のもと個に応じたきめ細かな指導体制の充実が図られるようにする。
- (6) 道徳科は、道徳の時間を要として指導し、学校教育活動全体を通して道徳的心情を育てる。
- (7) 健康・安全教育、性教育については、発達段階及び生活年齢を考慮し、児童の実態に応じた指導を行う。
- (8) 地域の小学校との計画的な交流及び共同学習の充実に努める。
- (9) 学校・家庭・地域社会の連携を密にし、児童の居場所、活躍の場を広げるよう指導を行う。
- (10) 特別活動を中心として、教科横断的なキャリア教育の視点を取り入れ、幼・小・中・高連携した指導に努める。また、キャリア・パスポートを作成、活用することで、学習を振り返り学びの定着を図れるようにする。
- (11) ICTを学習活動に効果的に活用し、児童の実態に応じた情報活用能力の基礎を育てる。
- (12) 外国の言語や文化に慣れ親しむよう、ALT等を活用する。
- (13) 児童の心身の調和的発達を促すよう、実態に応じて自立活動の時間を設定し指導するとともに学校教育全体を通して指導の工夫改善を図る。
- (14) 「各教科を合わせた指導」を行う場合には、学習指導要領の知的障害教育に係わる各教科等の目標及び内容等の達成を目指した指導計画を作成する。

3 各教科、各領域の指導の重点

(1) 各教科

【知識及び技能／思考力、判断力、表現力等／学びに向かう力、人間性等の順で表記】

①生活

- ・社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付き、日常生活の基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。
- ・自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
- ・身近な人々、社会及び自然について意欲的に学び、生活に生かそうとする態度を養うようにする。

②国 語

- ・日常生活の中で必要な国語について、その特質を理解し、使うことができるようにする。
- ・日常生活における人との関わりの中で、自分のできる方法で伝え合う力を身につけるようにする。
- ・言葉等を交えたやりとりで伝え合う良さを感じるとともに、言語感覚を養い国語を大切にしようとする態度を養う。

③算 数

- ・数学的活動を通して、身近にある数量や図形に注目して処理する技能を身につけるようにする。
- ・身近にある数量や図形の性質に気付いたり、表現したりするようにする。
- ・数学的活動の興味・関心を持ち、よりよく問題を解決しようとする態度、学校生活を送れるようにする。

④音 楽

- ・曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な技能を身につけるようにする。
- ・感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。
- ・音や音楽に楽しく関わり、教師や友達と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の周りの様々な音楽に親しみ、生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。

⑤図画工作

- ・色や形、素材に興味・関心を持ち、身近な材料や用具を用いることができるようにする。
- ・身近な材料や用具を使いながら、見たことや体験したことをもとに描いたり、作ったりすることができるようにするとともに友達の作品の表現方法やその面白さに気づくことができるようにする。
- ・自らの完成や想像力を働かせ、進んで表現や鑑賞の活動に取り組むことができるようにする。

⑥体 育

- ・基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身につけるとともに、健康や身体の変化について知ることができるようにする。
- ・基本的な運動を通して、考えたこと、気づいたことを他者に伝える力を養う。
- ・簡単なきまりを守り、友達と安全に楽しく運動をしようとしたり、健康に必要な事柄をしようとしたりする態度を養う。

(2) 道 徳 科

①道徳科

- ・よいことや悪いことの違いが分かり、わがままをしないで規則正しい生活を送り、できることは最後までやり抜こうとする態度を養う。
- ・気持ちのよい挨拶や言葉使い、動作などに心がけ、身近にいる人と仲良くし、助け合う心を育てる。
- ・約束や決まりを守り、手伝いや与えられた仕事に進んで取り組む態度を養う。
- ・身近な自然に親しみ、動植物に優しく接する心を育てる。

(3) 各 領 域

①特別活動

- ・実践的な集団活動を通して、友達への関わり方について学び、望ましい人間関係が形成できるようにする。
- ・集団の一員として学校生活に必要な係に取り組むことができるようにする。

- ・様々な集団活動を通して、よりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。

②自立活動

- ・個々の児童が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を培う。

ア 健康の保持

日常生活を行うために必要な生活のリズムや生活習慣の形成、健康状態の維持・改善を図る。

イ 心理的な安定

情緒の安定を図り、状況の理解と変化に対応できるように指導する。

ウ 人間関係の形成

自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加への基盤を培う。

エ 環境の把握

感覚を有効に活用し、周囲の状況を把握・理解し、判断・行動できるようにする。

オ 身体の動き

日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする。

カ コミュニケーション

場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする。

③外国語活動

- ・外国語を用いた体験的活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気づき、外国語の音声に慣れ親しむようにする。
- ・体験的な活動を通して、外国語を聞いたり表現したり、相手の働きかけに応じたりする基礎的な力を養う。
- ・外国語を通して外国の文化などに触れながら、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(4) 各教科等を合わせた指導

- ・各教科の目標を達成するため、必要に応じて設定し適切に指導する。

4 交流及び共同学習の重点

近隣の学校や地域との積極的な交流及び共同学習を通して、人や地域社会に関心を持つことができるようにする。さらに、お互いの理解、認識を深め、社会性を養うとともに豊かな人間関係を育てるようにする。

5 生徒指導の重点

自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、主体的によりよい人間関係を形成していこうとする資質・能力・態度を養う。

6 キャリア教育の重点

- (1) 生活年齢及び発達段階に応じて、自分でできることを増やし、できないことを周囲に依頼する(依頼自立)活動にとりくみ、基本的な生活習慣を身につけるようにする。
- (2) 家庭や地域と連携し、生活経験を拡大するため、コミュニケーションの習得を図り、人間関係の広がりを持てるようにする。

7 生涯学習への意欲を高める指導の重点

人や社会とつながれるようにスポーツ、文化、芸術活動を体験し、自分の好きな活動を見つけられるようにする。

8 安全教育の重点

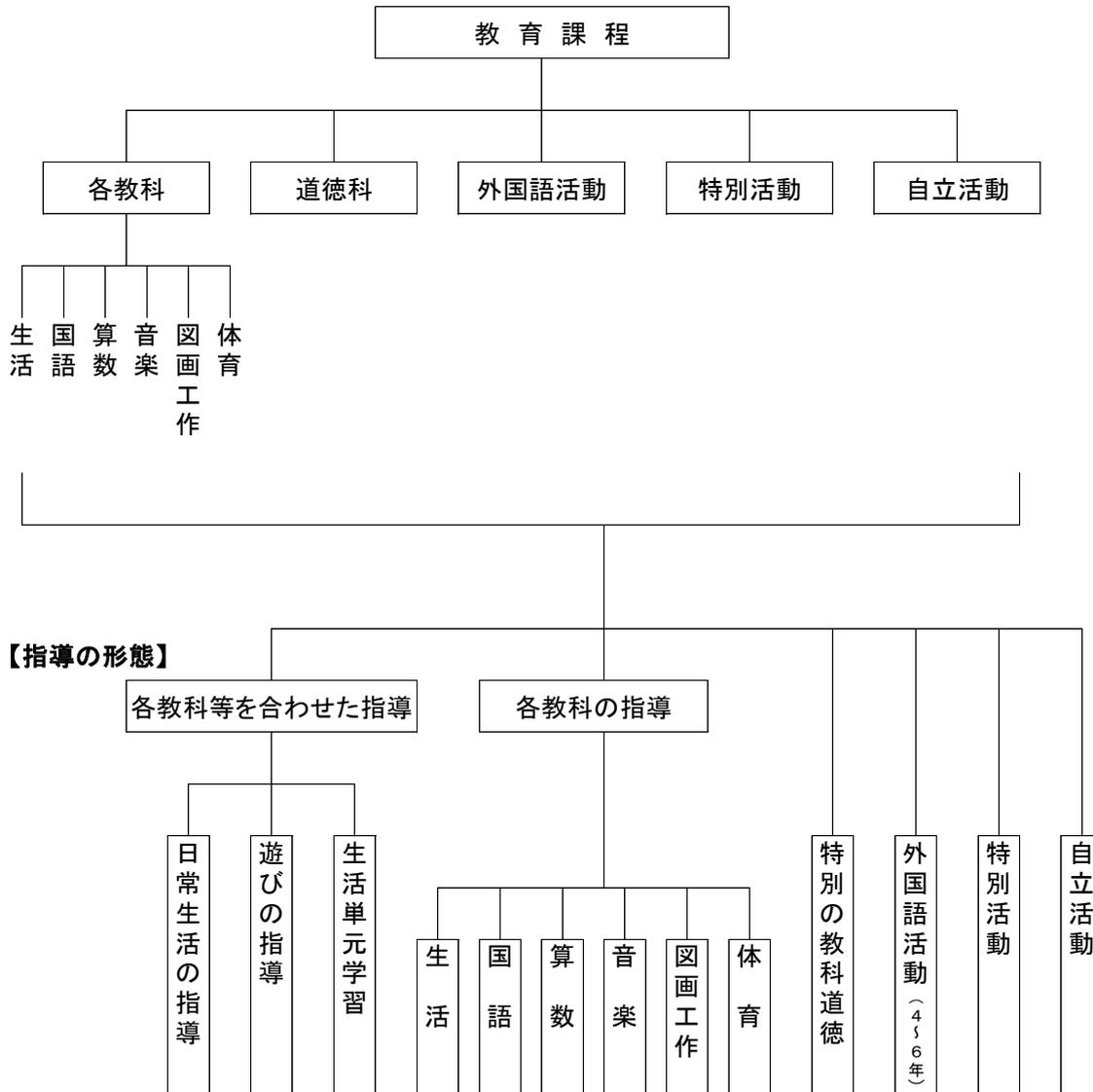
- (1) 教育活動全体を通して健康で安全な生活を営むのに必要な行動がとれるようにする。
- (2) 学校・家庭等日常生活の様々な場面における危険を理解し、安全な行動がとれるようにする。
- (3) 道路の歩行や道路横断の仕方等の交通ルールを守り、安全な行動がとれるようにする。

9 指導の形態（教育課程構造図を含む）

(1) 教育課程の構造図

①Ⅱ課程（知的障害特別支援学校の教科等に代替した教育課程）

A 類型（当該学部段階の各教科等の内容）



※ 単元や学習内容により「各教科等を合わせた指導」の指導形態をとることがある。時期や時間については必要な時期に適切な時間配当する。

※ 指導内容や時数に関しては「個別の指導計画」を活用し、個々の生活年齢に応じた指導を行う。